

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一七四二	寛保2	8/11~	豊竹座	道成寺現在蛇鱗 五段続	初段（和佐、彦、杣）、二段目（文字、和佐）、三段目（彦、駿河、道行 内匠・ワキ 文字、杣、駿河）、四段目（内匠、越前少掾・ツレ 文字、和 佐、内匠）、五段目（彦、ふし事 越前少掾・ワキ 内匠、杣）。 ※語り「附り くまの参りのぬれ男は三十三どの忍びね家札の取ちがへは 親子がいんぐはめぐりきた車長持かい取てさつはりと打た手拍子／井二 大和めぐりの色娘は三十三まいの思ひばさしぞへのふりかへはおとゝいが なんぎせんじつめた葉なべ顔かへてさつはりと打た乱拍子」。 ※絵尽（慶應義塾大学研究情報センター蔵）の鐘入りの場に「此所能かゝ り人形らん拍子の所作、古今の大当り／＼」とある。 ※二代目野沢喜八郎、越前少掾役場を弾く（野沢の面影）。	いもときよひめ（小八郎）、ひたか 川せんだう（嘉四郎）。
一七四四カ	延享1カ		江戸 肥前座カ	（道成寺現在蛇 鱗カ）	道成寺（播磨）。 ※『音曲猿口轡』竹本播磨太夫の条に「去々年肥前座へ半途にお下り・潤 色江戸紫二ノ切…三ノ切…出来ました。甚後大助の三別テ道成寺の出語」 とある。延享1年の「潤色江戸紫」などに続く興行として、一応同年同座と みなしておく。 ※外題は「道成寺の出語」とのみあるので「用明天王職人鑑」の可能性も ありうる（『義太夫年表 近世篇』）。	
一七五九	宝暦9	2/1~	竹本座	日高川入相花王 五段続	初段（大序 錦、中 中、切 組）、二段目（口 百合、奥 染、錦）、三段目 （口 春、奥 百合、政）、四段目（口 染、道行 初 染・ツレ 組、後 春・ ツレ 中、中 かけ合 組・百合・中・春、政）、五段目（百合）。 ※語り「抑是はせいわ天わう第六のわうじ情に切しくろかみはちつかにあ まるあすの錦木染てもそまらぬ心の白梅は源のつねもと／昔／＼くはんむ 天わう七代のこういん恨に切しふり袖は胸合ぬけふの細布とくにとかれぬ いもせのむすひ松は藤原のすみとも」。 ※5月4日、芝居類焼の時まで続演（『外題年鑑 明和版』『浄瑠璃譜』 『浄瑠璃大系図』『摂陽奇観』）。 ※京都大学図書館蔵の山本九兵衛他三軒刊七行正本及び鶴屋喜右衛門刊十 行正本奥にある太夫の連名には、番付に出る太夫の他に竹本千賀太夫、竹 本紋太夫、竹本富太夫、竹本浅太夫、竹本志賀太夫、竹本住太夫、竹本両 太夫、竹本桐太夫、竹本土佐太夫の名が見える。 ※『外題年鑑 明和版』に「大和掾吉田文三郎休」とあり、『浄瑠璃大系 図』の吉田文三郎の条にも「同九年己卯二月朔日より日高川入相花王此時 病氣にて休み」とある。 ※絵尽によると、道行に相当する部分に「本ぶたいよりの花みち一めんの 手すりと成引道具古今の大出来」とあり、「あんちん道成寺へ道行 桐竹 助三郎 おだまきひめ 田中小八出づかい」「きよひめ 吉田文吾つかい 申候」とあり、一人遣ひの絵が画かれてある。	きよひめ（文吾）、渡し守知平次 （友三郎）。

△

「日高川入相花王」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一七五九	宝暦9	5/20~	竹本座仮屋芝居	日高川入相花王	初段より四段・道行迄。 ※初日は番付に拠る。『外題年鑑 明和版』『浄瑠璃譜』『浄瑠璃大系図』はすべて21日からとする。但し『浄瑠璃大系図』の政太夫の条のみ「二十日より」とある。 ※切浄瑠璃「用明天王鐘入りの段」の配役は、竹本政太夫・竹本中太夫・大西藤蔵（番付）。『外題年鑑 明和版』には「出語り 太夫政太夫 人形出遣ひ吉田文吾」、『浄瑠璃譜』には「出語り 太夫 竹本政太夫／ワキ 同 染太夫／人形 吉田文吾」とある。	(不明)
△ 一七五九	宝暦9		伊勢中之地蔵	(日高川)	※『伊勢歌舞伎年代記』に拠る。	
一七六二 ~ 一七六三	宝暦12 ~ 宝暦13	~3	京竹本座	日高川入相花王	※二枚番付の2枚目の人形役割のみであるが、役名から「日高川入相花王」番付と判断できる。	きよひめ（庫十郎）、渡し守知平次（甚六）。
△ 一七六四	明和1		江戸ふきや町土佐座	(日高川入相花王)	※座本竹本伊勢太夫・悴同左膳／太夫本土佐少掾橘正勝。 ※『早稲田大学演劇博物館所蔵 特別資料目録4 芝居番付 近世篇(四)』に拠る。	
一七七二	安永1	3/10~	京四条通北側西大芝居 亀谷久米之丞座	日高川入相花王	道行おもひの雪吹（染・袖・春・是）。	きよ姫（文三）。
一七七八	安永7	9/17~	江戸肥前座	日高川	※「浄瑠璃相撲」の内。「座中のこらす出かたり出づかひ二相つとめ申候／取組毎日取替奉御覧入候」（番付）。	
一七七九	安永8	8	北ノ新地西芝居 竹田万治郎座	日高川入相花王	初段（中逸、切三保、文字）。	
△ 一七八一 ~ 一七八二	天明1 ~ 天明2	4以後 6以前	江戸肥前座	(道成寺現在蛇鱗)	鐘入（内匠）。 ※『義太夫執心録』内匠太夫の条に「安永五年申ノ春、中之芝居へ下られ、……夫より肥前座へ出勤にて、現在鱗鐘入を名残として登られけるが」とある。番付類を見るに、内匠太夫は安永5年から8年まで外記座、9年正月に肥前座に転じ、天明1年3月肥前座「鎌倉三代記」にも出演している。次の出演記録は天明2年6月大阪での「道具屋お亀」であるから、この間に上阪したもので「現在鱗鐘入」はその間の上演となる（『義太夫年表近世篇』）。	
一七九八	寛政10	(8以前)/13~	江戸土佐座	日高川	三の切（政）。	
一八〇二	享和2		伊勢いせ古市芝居	日高川入相花王	四だん目（口粟里、切出水）、道行（八百太）。 ※素人の太夫に本職の人形遣いが加わったもの。	清ひめ（直吉）、せんどう（長之介）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八二一	文政4	9/19~	いなり社内	日高川入相花王 大序より 三段目まで	嵐山の段（口 左馬、おく 琴）、加茂社の段（頼）、実頼やかたの段（口 錦、切 梶）、大亀谷の段（口 島、おく 音）、経基館の段（中 頼、次 染、切 重）、大作住家の段（口 音、切 政）。 ※語り「抑是はせいは天わう第六のわうじ情にきりしくろかみはちつかにあまるあすの錦木染てもそまらぬ心の白梅は源のつねもと／昔／くわんむ天わう七代のこういん恨に切しふり袖は胸に合ぬけふの細おびとくとかれぬいもせのむすび松は藤原のすみとも」。	
一八三七	天保8	12/27~	稲 荷 社 内	日高川入相花王 四段目	清姫しつとの段（口 頼母、切 勢イ見）。	清ひめ（辰造）。
一八四〇	天保11	3/15~	名古屋 清寿院御境内	日高川現在鱗	渡シ場のだん（カケ合 寿・むら）。	清ひめ（巳之助）、船頭（玉造）。
一八四一	天保12	1/5~	道頓堀竹田芝居	日高川入相花王	真那部庄司住家の段（口 若木、切 内匠）、道行（シテ むら・ツレ 高来）、問答の段（かけ合 力・源・与・内匠）、大切（かけ合 筆見・若木・鹿、白びやうし 吉田金四／ほうず 豊松国八／右出遣ひ早かわり二而相つとめ申候）。	娘清姫（徳二郎）。
一八五一	嘉永4	4	京 四条北側大芝居	日高川入相花王	渉場のだん（口 寿、切 津賀）。 ※角書「安珍／清姫」。	清ひめ（山吾）、舟頭（卯之介）。
一八五二	嘉永5	10/10~	京 寺町四条道場	現 在 鱗	日高川（きよひめ一寿玉齋・船頭一葉・安珍一津賀＝時造）。 ※「かげゑ」浄瑠璃。	
一八五七	安政4	2/28~	法善寺浄るり席	日 高 川	四つ目（田名）。	
一八六一	文久1	7中旬	紀州 建かし芝居	日高川入相桜 大序ヨリ 道成寺迄	桜狩（佐渡）、糺之川（大内）、小の館（口 千歳、切 八木）、狼谷（佐渡）、錦の里（口 倉戸、切 大内）、経基館（口 千歳、切 多賀）、純友住家（口 八木、切 絹）、庄司屋舗（口 倉戸、切 多賀）、渡し場（千歳）、道成寺ノ段（惣掛合 大道具）。 ※角書「安珍／清姫」。 ※市村六之丞座。 ※番付の人形役名と人形遣いの対応関係には明確さを欠く所がある（『義太夫年表 近世篇』）。	きよ姫（大五郎）、渡し守（文三）。
一八六一	文久1	7中旬	紀州 建かし芝居	安 珍 清 姫	※市村六之丞座。 ※「安珍清姫」の外題を掲げるが、この作（日高川入相桜）に対応する役名がない。これは、前項の番付を次の興行に一部彫り変えて流用する際に、外題欄の「前浄瑠璃安珍清姫」を削り残したもので、この点を訂正した番付が補遺写真89（『義太夫年表 近世篇』別巻・補訂篇）である。よってまず「安珍／清姫 日高川入相桜」興行が行なわれ、次に「八陣記・あさがほ」二本立てが行なわれ、「安珍清姫・八陣記・あさがほ」三本立て興行は行なわれなかった、と考えられる。但しこの「安珍／清姫 日高川入相桜」興行も「前浄瑠璃」と記しながら一本立てであること、「太夫」「たちやく」「おやま」など埋木の跡があることから、この興行に先立つ同種の興行が存在したことも考えられる。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八六一	文久1	8/1~	稲荷社内東芝居	日高川入相花王	庄司屋舗之段（口 和国、切 湊）、道成寺（白拍子一むら・ツレ 和・阿仏坊一多満・陀仏坊一長枝、吉田玉造／右出遣にて相勤申候）。	清姫（玉造）。
一八六七	慶応3	7/23~	京 四条道場北ノ 小家	日高川現在鱗	渡シ場ノ段（清姫一むら・安珍一寿＝時造）。	
一八七〇	明治3	5	座 摩 社 内	日高川入相花王	渡し場の段（尾木、布袋軒事 玉亀）、道行 道成寺の段（白拍子一勢い 見・ツレ 絹・阿仏坊一津嶋・陀仏坊一音、吉田兵吉 此所出つかひにて相つとめ申候）。	清姫（小兵吉）、舟頭（藤吉）。
一八七七	明治10	9	大 江 橋 席	日高川入相花王	渡し場の段（口 朝、切 山四郎＝兵吉）。	清ひめ（鹿造）、舟頭梶介（辰太郎）。
一八七九	明治12	1	道頓堀角の芝居	日高川入相花王	庄司屋敷の段（切 楠、仮名）、道成寺の段（白拍子一路・ツレ 千駒・阿仏坊一新靴・陀仏坊一仮名、出遣ひにて相勤申候／吉田辰造／吉田辰五郎）。 ※角書「安珍／清姫」。	
△ 一八九五	明治28	7/14~	東京 新 声 館	（日高川入相花王）	庄司屋敷の段（識予＝広三、織＝広兵衛）、日高川渡しの段（美浜＝勇三）。 ※演芸資料選書・5『東京の人形浄瑠璃』に拠る。	清姫（国五郎）。
△ 一九〇一	明治34	7/21	名古屋 歌舞伎座	（日 高 川）	四段目（さの）。 ※越路太夫・文字太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△ 一九〇一	明治34	8/4	京都 南 座	（日 高 川）	蛇鎧（さの）。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△ 一九〇二	明治35	8/9	京都 南 座	（日 高 川）	蛇龍（さの＝団七）。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△ 一九二六	大正15	2/15	本田吾妻倶楽部	（日 高 川）	（源福＝清丸）。 ※文楽若手会。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△ 一九二九	昭和4	7/29	東京 三越ホール	（日高川入相花王）	渡し場（清姫一和国＝猿三郎・船頭一巖＝泰助）。 ※第8回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃世界』第306号、『浄瑠璃雑誌』第282号に拠る。	
△ 一九二九	昭和4	8/15	東京 日比谷公園新音楽堂	（日 高 川）	渡し場の段（清姫一巖＝竜造・船頭一和国＝泰助）。 ※義太夫身振り。 ※『浄瑠璃雑誌』第282号に拠る。	
△ 一九三〇	昭和5	3/1	東京 飛 行 館	（日高川入相花王）	日高川の段（清姫一朝見・船頭一さ路＝竜造）。 ※五代竹本さの太夫改め七代豊竹湊太夫披露会。竹沢竜造身振劇出演。 ※『浄瑠璃雑誌』第289号に拠る。	
△ 一九三一	昭和6	10/28~29	京都カ 岡崎市公会堂	（日 高 川）	日高川（清姫一源路・船頭一文＝猿太郎・団二郎）。 ※道成寺芸術大会。 ※『浄瑠璃世界』第328号、『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	（紋十郎）、（玉幸）。

「日高川入相花王」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九三二	昭和7	7/1~20	四ツ橋文楽座	日高川入相花王 渡し場の段（清姫一南部／小春・船頭一長尾＝広助・歌助・ツレ 友若／寛市・叶太郎／友二・団伊三／団二郎）。	清姫（紋十郎）、船頭（紋太郎）。
	一九四一	昭和16	6/20	東京 国民新劇場	（日 高 川） ※南北座春季公演。 ※『太棹』第127号、「朝日新聞（東京版）」（6月18日）に拠る。	
	一九四一	昭和16	9/1~23	四ツ橋文楽座	日 高 川 日高川の段（清姫一伊達・船頭一源／長尾・ツレ 長尾／源・さの／叶美・松島／呂賀／南次・三滝＝吉弥・勝平・友造／友平・猿二郎／友作・鶴太郎／友太郎・仙松／団作）。 ※文字太夫改め六代竹本住太夫襲名披露。 ※千穂楽は『文楽興行記録昭和篇』に拠る。	清姫（紋十郎）、船頭（栄三郎）。
	一九四二	昭和17	7/21~25	東京 新橋演舞場	日 高 川 日高川の段（清姫一伊達・船頭一七五三・ツレ 津磨・松島・呂賀＝吉左・吉季・勝芳・一郎右衛門・団作・清広）。	清姫（紋十郎）、船頭（玉徳）。
△	一九四三	昭和18	4/2	浅草 並木倶楽部	（日 高 川） 渡し場の段（清姫一朝見＝和孝・船頭一卯＝扇之助）。 ※義太夫古曲発表会。人形は結城孫三郎一座出演。 ※『太棹』第141~143号、『浄瑠璃月報』第62号に拠る。	
	一九四六	昭和21	3/3~22	四ツ橋文楽座	日高川入相花王 日高川の段（清姫一伊達・船頭一浜・ツレ 富・松島＝清二郎・吉三郎・一郎右衛門・団作）。 ※24日までの予定であったが、発疹チフス流行の為23日より公演中止（『義太夫年表 昭和篇』）。	清姫（紋十郎）、船頭（玉助）。
△	一九四六	昭和21	6/21	佐賀 佐賀劇場	日高川入相花王 （隅若・八十）。 ※中国・九州巡業（6月6~21日）の内。6月6日倉敷・千秋座（役割不明）、6月17~19日博多・大博劇場（役割不明）で同公演あり。 ※「西日本新聞（地方版）」（6月16・18~19日の広告）、「合同新聞」（6月5日の広告）に拠る。	（不明）
△	一九五〇	昭和25	2/11~12	兵庫 洲本劇場 〈組合〉	（日 高 川） 清姫狂乱。 ※淡路芸能文化協会主催、洲本市制10周年記念行事。 ※「神戸新聞（淡路版）」（2月10日）に拠る。	（不明）
△	一九五〇	昭和25	2/18~19	和歌山 田辺市公会堂 〈組合〉	（安珍清姫 日高川） 日高川。 ※「紀伊民報」（2月15日の記事、2月14日の広告）に拠る。	（不明）
△	一九五〇	昭和25	8/7	倉敷 松竹劇場 〈組合〉	（安珍清姫 日高川入相花王） 日高川の段。 ※中国巡業（8月7~9日）の内。 「山陽新聞」「夕刊岡山」（8月7日の広告）、『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』に拠る。	（不明）
△	一九五二	昭和27	4/12	長野 松本市第二公民館 〈三和会〉	（安珍清姫 日高川） 日高川。 ※4月13日長野・長野市商工会館、4月18日新潟県・高田文化劇場、4月24~25日宮城・仙台劇場で同公演あり。 ※「信濃毎日新聞」（4月11・13~14日の記事、4月4・7・16日の広告）、「河北新報」（4月23日）、『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』に拠る。	（不明）
			4/30	横浜 神奈川体育館 〈三和会〉	安 珍 清 姫 日高川の段（呂賀・古住・伊達路＝友若・団作・猿二郎）。 ※北陸・関東・東海巡業（4月9日~5月3日）の内。	清姫（紋之助）、船頭（勘十郎）。

「日高川入相花王」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五二	昭和27	7/1~4	東京 新橋演舞場 〈因会〉	日高川入相花王	日高川の段（清姫一雛・船頭一静・織部・弘・十九=広助・清友・寛弘・藤之助・清好・新三郎）。	清姫（亀松）、船頭（玉男）。
一九五二	昭和27	8/20~24	四ツ橋文楽座 〈因会〉	日高川入相花王	日高川の段。 ※女義太夫合同公演。文楽座人形特別出演。	清姫（玉五郎）、船頭（兵次）。
一九五五	昭和30	6/7~26	四ツ橋文楽座 〈因会〉	日高川入相花王	日高川の段（清姫—和佐／長子・船頭—静・弘・相子・相次=清友／錦糸・新三郎・団二郎・藤二郎・喜八郎）。 ※千種楽は『松竹百年史』に拠る。	清姫（玉五郎）、船頭（淳造）。
一九五五	昭和30	7/1~4	四ツ橋文楽座 〈因会〉	日高川入相花王	日高川の段。 ※人形浄瑠璃女義太夫合同公演。	清姫（玉五郎）、船頭（淳造）。
一九五五	昭和30	9/1~	地方公演 （東海・他） 〈因会〉	日高川入相花王	渡し場の段（清姫—織部・船頭—弘=清友・新三郎・団二郎・藤二郎）。	安珍清姫（玉五郎）、船頭（淳造）。
一九五五	昭和30	12/1~8	東京 三越劇場 〈三和会〉	日高川入相花王	清姫狂乱の段（清姫—古住・船頭—小松・ツレ 常子=燕三・仙二郎・団作・八助・友若・猿二郎）。	清姫（紋十郎）、船頭（勘十郎）。
△ 一九五五	昭和30	12/24	ラジオ放送 〈因会〉	（日 高 川）	（伊達）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（12月24日）に拠る。	
一九五七	昭和32	6/1~9	東京 三越劇場 〈三和会〉	日高川入相花王	渡し場の段（清姫—小松・船頭—常子=市治郎・仙二郎・団作・猿二郎）。 ※初代桐竹紋十郎五十回忌追善公演。	清姫（紋之助）、船頭（作十郎）。
一九五七	昭和32	11/12~13	京都 先斗町歌舞練場 〈三和会〉	日高川入相花王	渡し場の段（清姫—小松・船頭—常子・ツレ 三和・松島=燕三・団作・勝平・友若・猿二郎）。 ※初代桐竹紋十郎五十年忌記念興行。	清姫（紋之助）、船頭（紋寿／紋弥）。
一九五七	昭和32	12/3~	地方公演 （関東） 〈三和会〉	日 高 川	渡場の段（清姫—小松・船頭—常子=燕三・仙二郎・団作・猿二郎）。 ※角書「安珍／清姫」。	清姫（紋之助）、船頭（作十郎）。
一九五七	昭和32	12/14~15	神戸 神戸新聞会館 〈三和会〉	日高川入相花王	渡し場の段（清姫—古住・船頭—常子・ツレ 三和=市治郎・団作・勝平・仙二郎）。 ※桐竹紋十郎紫綬褒賞(マ)受賞・初代紋十郎五十年忌記念。	清姫（紋十郎）、船頭（作十郎）。
一九五九	昭和34	7/4~9	東京 三越劇場 〈三和会〉	日高川入相花王	日高川の段（清姫—小松・船頭—松島=市治郎・仙二郎・団作・猿二郎）。	清姫（紋十郎）、船頭（作十郎）。
一九六二	昭和37	4/18~5/3	地方公演 （東海・関東） 〈三和会〉	日高川入相花王	狂乱の段（小松・松島=燕三・仙二郎・団作）。 ※角書「安珍／清姫」。	清姫（清十郎）、船頭（紋寿）。
△ 一九六二	昭和37	4中旬	京都 〈三和会〉	（道 成 寺）	※桐竹紋十郎等が京都のナイトクラブで「道成寺」庄司の館から日高川までを上演。 ※「東京新聞」（3月20日）に拠る。	

「日高川入相花王」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九六二	昭和37	6/13~22	地方公演 (関東) 〈三和会〉	(日高川入相花王) ※東京都内文楽教室。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れ、巡業日程表に拠る。	清姫(清十郎)、船頭(紋寿)。
	一九六二	昭和37	7/10	足利市 月見ヶ丘学園 体育館 〈三和会〉	日高川入相花王	清姫狂乱の段(小松・松島・若子=勝平・団作・勝之輔)。
	一九六二	昭和37	10/29~11/16	地方公演 (東海・関東・中部) 〈三和会〉	日高川入相花王	狂乱の段(小松・松島=燕三・仙二郎・団作)。 ※角書「安珍/清姫」。
	一九六三	昭和38	2/22~	地方公演 (東京) 〈三和会〉	日高川入相花王	狂乱の段(小松・松島=仙二郎・団作・広若・猿二郎)。 ※角書「安珍/清姫」。
	一九六三	昭和38	3/23	道頓堀文楽座 〈因会〉	安珍清姫 入相花王	日高川の段。 ※文楽素人人形浄瑠璃公演会。素義会に人形参加。
△	一九六四	昭和39	4/17	ラジオ放送	(日高川入相花王) (春子=松之輔)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」(4月17日)に拠る。	
	一九七三	昭和48	5/13~27	東京 国立劇場 小劇場	日高川入相花王	渡し場の段(嶋・相生・緑・津駒=道八・団二郎・清友・寛平・叶太郎)。
	一九七四	昭和49	3/1	和歌山 和歌山県民文化会館小ホール	日高川入相花王	渡し場の段(清姫一小松・船頭一松香=松之輔・勝平・団二郎)。 ※和歌山県文化賞受賞 野沢松之輔記念演奏会。
	一九七四	昭和49	7/17~30	朝日座	日高川入相花王	渡し場の段(咲・英・貴・織の/津国/文字栄=燕三・勝平・勝之輔・勝司・弥三郎/勝矢)。 ※渡欧公演帰朝記念。
	一九七八	昭和53	6/1~4	京都 京都府立文化芸術会館	日高川入相花王	渡し場の段(清姫一呂・船頭一松香・ツレ 津駒=勝平・勝司・清友・八介)。
△	一九七八	昭和53	6/22~31	大阪	(日高川入相花王) ※中学生のための文楽教室。 ※『文楽 協会創立二十五周年を記念して一文楽協会』に拠る。	(不明)
	一九八〇	昭和55	4/13~29	朝日座	日高川入相花王	渡し場の段(嶋・相生・貴・文字栄・津国・津梅=勝司・清介・浅造・八介・錦弥・燕二郎)。
	一九八〇	昭和55	5/10~25	東京 国立劇場 小劇場	日高川入相花王	真那古庄司館の段(口 津駒=清友・奥 小松=燕三)、渡し場の段(清姫一南部・渡し守一松香・津国・南司・津梅=団二郎・清介・浅造・燕太郎・燕二郎)。
	一九八一	昭和56	6/26~29	京都 京都府立文化芸術会館	日高川入相花王	渡し場の段(小松・相生・津国/南司・文字栄/文字登=道八・清友・八介・燕二郎・団治)。
						清姫(清十郎)、船頭(小玉)。

「日高川入相花王」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九八三	昭和58	3/8~27	地方公演 (近畿・中 国・九州・東 海・関東)	日高川入相花王	渡し場の段(津駒・貴・南司・文字久=弥三郎/浅造・錦弥・団治・浅造 /弥三郎)。	清姫(文雀)、船頭(文吾)。
一九八五	昭和60	11/15~30	国立文楽劇場	道成寺入相花王	日高川渡し場の段(嶋・相生・津国・文字栄・南都=清介・浅造・八介・ 清二郎・清吾)。	清姫(紋寿)、船頭(簗太郎)。
一九八八	昭和63	3/3~16	国立文楽劇場	日高川入相花王	渡し場の段(津駒・三輪・文字栄・南寿=富助・八介・燕二郎・浅造)。 ※吉田勘緑9日休演のため、船頭を吉田玉也が代演。	清姫(簗太郎)、船頭(勘緑)。
一九九一	平成3	4/6~25	国立文楽劇場	日高川入相花王	渡し場の段(三輪・津国・津梅・文字久・文字栄=清友・団治・浅造・清 二郎・清太郎/喜一郎・団吾/団市)。	清姫(簗太郎)、船頭(玉女)。
△ 一九九二	平成4	2/14~16	和歌山	日高川入相花王	渡し場の段(英・津駒・他=清友・他)。 ※和歌山県特別公演。 ※国立文楽劇場第45回文楽公演解説書(平成4年4月)に拠る。	清姫(紋寿)、船頭(玉幸)。
一九九四	平成6	12/6~18	東京 国立劇場 小劇場	日高川入相花王	渡し場の段(松香・津駒・呂勢・新/始/咲甫=弥三郎・清二郎・清太 郎・団吾・団市)。 ※桐竹勘寿休演のため、船頭を吉田玉志が代演。	清姫(和生)、船頭(勘寿)。
一九九五	平成7	9/30~10/1	愛媛 内子座	(日高川入相花 王)	渡し場の段(清姫一三輪・船頭一津国・ツレ 新=宗助・喜一郎・玉輝)。 ※内子座文楽第1回公演。	清姫(和生)、船頭(玉輝)。
一九九五	平成7	10/3~20	地方公演 (東海・関 東・東北・北 海道)	日高川入相花王	渡し場の段(清姫一三輪・船頭一津国・ツレ 新=宗助・喜一郎・玉輝)。	清姫(和生)、船頭(玉輝)。
一九九五	平成7	10/21~25	地方公演 (近畿・中 国)	日高川入相花王	渡し場の段(清姫一三輪・船頭一津国・ツレ 新=宗助・喜一郎・清志 郎)。 ※文化庁主催移動芸術祭。	清姫(和生)、船頭(玉輝)。
一九九六	平成8	3/3~27	地方公演 (九州・中 国・近畿・東 海・関東・中 部・北陸)	日高川入相花王	渡し場の段(清姫一呂勢・船頭一文字久・ツレ 文字栄=弥三郎・喜一郎・ 団吾・団市)。	清姫(簗太郎)、船頭(文司)。
一九九六	平成8	4/6~26	国立文楽劇場	日高川入相花王	渡し場の段(咲・松香・津国・南都・文字栄=団七・宗助・浅造・団吾・ 清志郎)。	清姫(紋寿)、船頭(勘寿)。
二〇〇〇	平成12	4/1~23	国立文楽劇場	日高川入相花王	真那古庄司館の段(口 三輪=弥三郎・奥 咲=富助)、渡し場の段(清 姫一津駒・渡し守一貴・文字栄・始・相子/呂茂=団七・八介・団吾・団 市・清胤)。 ※文化財保護法50年記念。	娘清姫(紋寿)、渡し守(玉女)。
二〇〇二	平成14	8/31~9/1	愛媛 内子座	日高川入相花王	渡し場の段(清姫一呂勢・船頭一津国・つばさ=清太郎・団吾・清志 郎)。 ※第6回内子座文楽。	清姫(清之助)、船頭(玉也)。

「日高川入相花王」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
二〇〇四	平成16	10/2~21	地方公演 (東海・関東・東北・北陸・近畿・中国)	日高川入相花王	渡し場の段(清姫一三輪・船頭一新・ツレ 始・芳穂/靖=団七・団吾・龍聿・龍爾)。 *「芳穂」の芳は異体字。	清姫(文司)、船頭(和右)。
二〇〇五	平成17	3/5~24	地方公演 (中国・九州・近畿・関東・北陸)	日高川入相花王	渡し場の段(清姫一千歳・船頭一津国・ツレ 文字栄・芳穂/靖=燕二郎・喜一郎・龍聿・龍爾)。 *「芳穂」の芳は異体字。	清姫(簗二郎)、船頭(清五郎)。
二〇〇五	平成17	4/2~24	国立文楽劇場	道成寺入相花王	日高川渡し場の段(清姫一三輪・船頭一津国・始・芳穂・希/靖=清友・弥三郎・清道・清丈・寛太郎)。 *「清丈」の丈、「芳穂」の芳は異体字。	清姫(簗二郎/勘弥)、船頭(玉志)。
二〇〇五	平成17	9/3	和歌山道成寺特設舞台	日高川入相花王	渡し場の段(清姫一咲・船頭一英・相子=燕二郎・清志郎・清道・龍聿)。	清姫(簗助)、船頭(勘十郎)。
△ 二〇〇五	平成17	11/30	富山富山能楽堂	日高川入相花王	渡し場の段(清姫一呂勢・渡し守一咲甫・ツレ 睦=燕二郎・清志郎・清道)。 ※チラシに拠る。	清姫(勘十郎)、船頭(勘弥)。
二〇〇五	平成17	12/22~23	守口市京阪百貨店守口店7階京阪ギャラリー	日高川入相花王	渡し場の段(英・呂茂・希=燕二郎・団吾・喜一郎)。	清姫(清之助)、船頭(文司)。
二〇〇七	平成19	3/15	和歌山川辺西小学校	日高川入相花王	渡し場の段(清姫一始・船頭一相子・靖=団吾・清丈・寛太郎)。 ※文楽日高川公演。 *「清丈」の丈は異体字。	清姫(清之助)、船頭(勘緑)。
△ 二〇〇七	平成19	8/12	愛知岩倉市総合体育文化センター	日高川入相花王	渡し場の段(清姫一津駒・船頭一三輪・睦=富助・喜一郎・清丈)。 ※チラシに拠る。 *「清丈」の丈は異体字。	清姫(勘十郎)、船頭(玉輝)。
△ 二〇〇七	平成19	9/1	河内長野ラブリオホール	日高川入相花王	渡し場の段(清姫一呂勢・船頭一芳穂・靖=喜一郎・清志郎・龍聿・清公)。 ※チラシに拠る。 *「芳穂」の芳は異体字。	清姫(清之助)、船頭(文司)。
二〇〇七	平成19	12/21~23	福岡博多座	日高川入相花王	渡し場の段(清姫一三輪・船頭一新・つばさ・靖=団七・清丈・龍爾・寛太郎)。 *「清丈」の丈は異体字。	清姫(簗二郎)、船頭(勘緑)。
二〇〇八	平成20	5/31	岐阜相生座	日高川入相花王	渡し場の段(呂勢・芳穂=宗助・清道・清丈)。 *「清丈」の丈、「芳穂」の芳は異体字。	清姫(勘十郎)、船頭(清五郎)。

「日高川入相花王」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
二〇〇九	平成21	5/9~24	東京 国立劇場 小劇場	日高川入相花王	真那古庄司館の段（口 つばさ＝清丈、切 咲＝燕三）、渡し場の段（清姫一三輪・渡し守一津国・文字栄・呂茂・咲寿＝宗助・団吾・龍爾・寛太郎・清公）。 ※国立文楽劇場開場25周年記念。 *「清丈」の丈は異体字。	娘清姫（紋寿）、渡し守（清五郎）。
二〇〇九	平成21	10/3~21	地方公演 （近畿・東北・東海・関東・中部・北海道）	日高川入相花王	渡し場の段（清姫一呂茂・船頭一芳穂・希＝清尙・清丈・寛太郎・清公）。 *「清丈」の丈、「芳穂」の芳は異体字。	清姫（簗二郎）、船頭（一輔／清五郎）。
二〇一〇	平成22	1/3~24	国立文楽劇場	日高川入相花王	渡し場の段（清姫一英・船頭一津国・芳穂・呂茂・靖＝団七・清志郎・龍爾・清公）。 ※国立文楽劇場開場25周年記念。 *「芳穂」の芳は異体字。	清姫（清十郎）、船頭（幸助）。
二〇一〇	平成22	2/28~3/21	地方公演 （近畿・九州・中国・関東・信越・東海）	日高川入相花王	渡し場の段（清姫一相子・船頭一靖・文字栄＝団吾・龍爾・寛太郎・錦吾）。	清姫（簗二郎）、船頭（玉佳）。
二〇一一	平成23	7/23~8/8	国立文楽劇場	日高川入相花王	渡し場の段（清姫一三輪・船頭一南都・文字栄・靖・亘＝清友・清志郎・龍爾・錦吾）。	清姫（清十郎）、船頭（玉佳）。
二〇一三	平成25	6/7~20	国立文楽劇場	日高川入相花王	【7~9・11~13日午前・10日午後】渡し場の段（清姫一咲甫・船頭一始・希・咲寿・亘＝団吾・喜一朗・清丈・寛太郎・清公）。 *「清丈」の丈は異体字。	清姫（文昇）、船頭（紋秀）。
					【7~9・11~13日午後】渡し場の段（清姫一芳穂・船頭一南都・睦・靖・小住＝清志郎・清尙・龍爾・清公・錦吾）。 *「芳穂」の芳は異体字。	清姫（清五郎）、船頭（玉勢）。
					【14~18・20日午前・19日午後】渡し場の段（清姫一芳穂・船頭一南都・相子・靖・亘＝団吾・清尙・清丈・龍爾・錦吾）。 ※竹本相子太夫休演。 *「清丈」の丈、「芳穂」の芳は異体字。	清姫（紋臣）、船頭（簗紫郎）。
					【14~18・20日午後】渡し場の段（清姫一芳穂・船頭一始・希・咲寿・小住＝清志郎・清丈・寛太郎・清公・錦吾）。 ※第30回文楽鑑賞教室。 *「清丈」の丈、「芳穂」の芳は異体字。	清姫（一輔）、船頭（文哉）。
二〇一三	平成25	12/21~22	福岡 博多座	日高川入相花王	渡し場の段（清姫一呂勢・船頭一文字久・ツレ 咲寿・小住＝清治・清志郎・清尙・清公・清允）。 ※公益財団法人文楽協会創立50周年記念・竹本義太夫三〇〇回忌。	清姫（清十郎）、船頭（玉志）。
二〇一四	平成26	9/6~22	東京 国立劇場 小劇場	日高川入相花王	渡し場の段（清姫一三輪・船頭一芳穂・希・小住・亘＝団七・清尙・寛太郎・錦吾・燕二郎／清允）。 *「芳穂」の芳は異体字。	清姫（簗二郎）、船頭（玉佳）。

「日高川入相花王」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
二〇一五	平成27	3/19~22	東京 六本木ヒルズ・ヒルズアリーナ	日高川入相花王	渡し場の段（三輪・文字栄・希・亘＝団七・団吾・清丈・清公）。 ※につぼん文楽。 *「清丈」の丈は異体字。	（清十郎）、ほか。
二〇一五	平成27	9/26~10/12	地方公演 （近畿・東海・東北・北海道・北陸・関東）	日高川入相花王	渡し場の段（清姫一三輪・船頭一始・ツレ 文字栄＝団吾・寛太郎・清公）。	清姫（清五郎）、船頭（簗一郎）。
二〇一六	平成28	2/27~3/21	地方公演 （中国・北陸・九州・関東・東海・近畿）	日高川入相花王	渡し場の段（清姫一靖・船頭一南都・ツレ 咲寿＝清尙・清丈・清允）。 *「清丈」の丈は異体字。	清姫（簗二郎）、船頭（勘市）。
二〇一六	平成28	8/25~26	大阪市中央公会堂	日高川入相花王	渡し場の段。 ※「ムムム！！文楽シリーズ 中之島文楽2016」。	（不明）
二〇一六	平成28	10/29~11/20	国立文楽劇場	日高川入相花王	渡し場の段（清姫一三輪・船頭一始・芳穂・靖・亘＝団七・団吾・清丈・錦吾・清允）。 ※国立劇場開場50周年記念。 *「清丈」の丈、「芳穂」の芳は異体字。	清姫（勘弥）、船頭（勘市）。
二〇一七	平成29	12/7~19	東京 国立劇場 小劇場	日高川入相花王	【7~13日午前・14・16・19日午後・15日夜】渡し場の段（希・咲寿・小住・亘・碩＝清尙・寛太郎・清公・錦吾・燕二郎）。	清姫（紋臣）、船頭（紋秀）。
					【7・9・12・13日午後・14~19日午前・8・11日夜】渡し場の段（芳穂・靖・咲寿・亘・碩＝清丈・友之助・清公・錦吾・清允）。 ※第49回文楽鑑賞教室。8・11・15日夜は社会人のための文楽鑑賞教室。 *「清丈」の丈、「芳穂」の芳は異体字。	清姫（簗紫郎）、船頭（文哉）。
二〇一九	平成31年	3/9~12	東京 明治神宮 原宿口鳥居前	日高川入相花王	渡し場の段（清姫一呂勢・船頭一睦・ツレ 咲寿＝藤蔵・友之助・清公・清允）。 ※明治神宮奉納公演～につぼん文楽 in 明治神宮。	清姫（勘弥）、船頭（簗紫郎）。
二〇一九	令和1	7/7	山口 ルネッサながと	日高川入相花王	渡し場の段（清姫一織・船頭一小住・碩＝清志郎・寛太郎・清公・清允）。 ※長門文楽。	清姫（簗紫郎）、船頭（玉勢）。
二〇一九	令和1	7/20~8/5	国立文楽劇場	日高川入相花王	渡し場の段（三輪・芳穂・咲寿・亘＝団七・団吾・清尙・友之助・錦吾）。 ※国立文楽劇場開場35周年記念。 *「芳穂」の芳は異体字。	清姫（文昇）、船頭（勘市）。
二〇一九	令和1	10/2~18	地方公演 （中国・東海・北海道・関東・北陸・東北）	日高川入相花王	渡し場の段（清姫一小住・船頭一亘・碩＝寛太郎・錦吾・清允）。	清姫（簗紫郎）、船頭（文哉）。

「日高川入相花王」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
二〇二〇	令和2	3/6~21	地方公演 (近畿・関東・東海)	日高川入相花王	渡し場の段。 ※新型コロナウイルス感染症対策のため、公演中止。	